

NPO法人青木繁「海の幸」会

小谷家住宅を復元・保存

2200万円募金を呼びかけ

天折の天戈画家青木繁が、代表作「海の幸」を制作した

館山市布良(めら)の元網元小谷家を当時の姿に修復して保存しようと、NPO法人・青木繁「海の幸」会(理事長・大村智女子美術大学理事長、

北里研究所名誉理事長)が寄付金を呼びかけている。

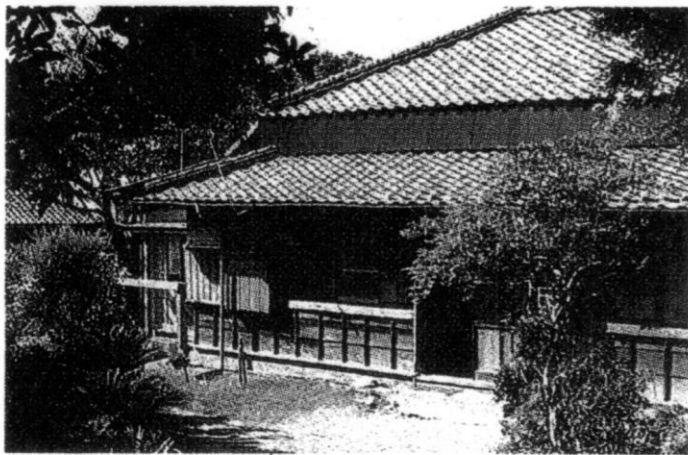
青木繁が友人の画家坂本繁二郎、森田恒友、恋人福田たねと四人で、南房総へ写生旅行に出かけ、小谷家に投宿したのは、東京美術学校卒業ま

坪(680㎡)の敷地に瓦葺き築百三十年の木造平家が建っている。間取りは六部屋

で、天井板に桑材が用いられ、戸袋わきにはナマコ壁跡が残っている。阿由戸浜を見おろす近くの高台には昭和三

同NPO法人事業委員会は①神話のふるさとで万葉と親しむ会②館山の里山を撮る会③野鳥の森バードウォッチング④布良を描くスケッチの会なども開催したいという。問い合わせは〒214-0000

川崎市多摩区菅北浦3-2-40 同法人理事・事務局長の吉岡友次郎氏☎・FAX 044(945)5473。



青木繁が「海の幸」を制作した小谷家。NPO法人青木繁「海の幸」会提供部分

もない明治三十七年(1904)だった。青木はここで、のちに洋画の国指定重要文化財一号となる名作「海の幸」を誕生させた。

小谷家は木々に囲まれた二百

旧友らによって、没後五十年記念碑が建立されている。同NPO法人は酒井忠康世田谷美術館長、入江観女子美術大学名誉教授、詩人ワシオトシヒコ氏、絹谷幸二日本芸術院会員ら著名な画家、評論家ら九十四人が発起人となり昨年六月、設立準備総会がひらかれ、理事二十一人を選出し今年一月に認可された。

しかし、平山郁夫東京芸大元学長と美術評論家針生一郎氏が今年他界し、理事十九人によって運営している。

来年は青木繁の没後百年。

同NPO法人はそれまでに二千二百万円の募金を集めたいとしている。個人正会員、賛助会員は一口二万円。賛助会員団体・法人は一口五万円。一口以上なん口でもよい。ゆうちょ銀行、郵便局からの振替口座番号は00190151466404。青木繁海の幸会。